

「第 70 回お花見レガッタ」  
「第 31 回東日本中学選手権」  
実施報告書

表件のレガッタにつき、下記の通り実施報告を致します。

記

1. 大会名：第 70 回記念大会お花見レガッタ  
第 31 回東日本中学選手権
2. 日 時：2022 年 3 月 26 日（土）～27 日（日）  
集合 7:30  
第 1 レース 9:00  
最終レース 初日 15:48  
2 日目 16:02
3. 場 所：戸田ボートコース（埼玉県戸田市） 1,000m
4. 主 催：一般社団法人東京都ボート協会  
後 援：読売新聞社・オアズマンクラブ、尾西食品株式会社
5. 備考
  - ・ コロナ対応として無観客実施
  - ・ 1000m 地点から 2000m を使用
  - ・ レースは 6 分間隔
  - ・ 2 日目昼休みにオアズマンクラブ主催の慰霊レースを実施
6. 審判参加者  
東京 27 名  
栃木 7 名 茨城 1 名 千葉 1 名 神奈川 2 名 計 39 名

★部署長 ☆新人指導役	3月26日(土)		3月27日(日)	
	午前	午後	午前	午後
審判長席	栗山俊久※ 田中 友理佳※	栗山俊久※ 小鳥谷 博子※	栗山俊久※ 國光 正浩※	栗山俊久※ 國光 正浩※
発艇 (定員4名)	國光 正浩★ 川田 有紗 吉田 正明☆ 木越 健太	油屋 晴美★ 松浦 はるか 佐藤 望遥☆ 石田 佳央	長谷川 遼子★ 榊原 舞子 矢部 くるみ 石田 元輝 田中 友理佳	正岡 久武★ 三木 健司 船渡川 優衣 中村 麟太郎 飯島 温人
線審	正岡 久武★ 榊原 舞子☆ 佐藤 望遥 矢部 くるみ 中村 麟太郎	長谷川 遼子★ 船渡川 優衣 川田 有紗 土井 秀明☆ 三木 健司	服部 達也★ 石田 佳央 木越 健太 小鳥谷 博子	鈴木 忍★ 松浦 はるか 福士 幸洋 油屋 晴美
M1	長谷川 遼子★ 小鳥谷 博子	國光 正浩★ 小野田 亮太	正岡 久武★ 櫻田 晋	乙藤 徹★ 小野田 亮太
M2	吉野 泰宏★ 金子 正典	乙藤 徹★ 櫻田 晋	吉野 泰宏★ 飯島 温人	成田 泰久★ 金子 正典
M3	乙藤 徹★ 土井 秀明	吉野 泰宏★ 田中 友理佳	成田 泰久★ 金子 正典	長谷川 遼子★ 櫻田 晋
判定	油屋 晴美★ 柏崎 美和 藤森 まいこ☆ 岡芹 弘幸 石田 佳央 三木 健司	正岡 久武★ 矢部 くるみ 山本 雄司 鈴木 忍☆ 福北 良司 中村 麟太郎	関戸 裕子★ 川田 有紗 船渡川 優衣 松浦 はるか 小野田 亮太	吉野 泰宏★ 榊原 舞子 木越 健太 平木 健一
舵手計量 (判定補助)	櫻田 晋★※ 船渡川 優衣 福北 良司☆ 山本 雄司	平木 健一★※ 榊原 舞子☆ 吉田 正明☆ 木越 健太	鈴木 忍★※ 中村 麟太郎	服部 達也★※ 川田 有紗(途中離脱) 矢部 くるみ
艇計量	小野田 亮太★ 松浦 はるか 鈴木 忍 平木 健一☆	金子 正典★ 柏崎 美和 藤森 まいこ☆ 岡芹 弘幸	乙藤 徹★ 三木 健司 福士 幸洋	関戸 裕子★ 齋藤 宗一郎 石田 佳央
不服審査委員会	※3名	※3名	※3名	※3名
B級実技試験対策			平木 健一 油屋 晴美	田中 友理佳 小鳥谷 博子

## 7. 審判部署関連特記

### (1) 全般

- ・ 2022年4月1日発効の新競漕規則にて実施。

(2) 発艇

- ・発艇台船から信号発艇
- ・慰霊レースは300mのため、M1から昭和号令「〇〇いいか、用意、ゴー」にて実施

(3) 主審

- ・棧橋監視ができないため主審艇にてD/W確認と艇計量指示を実施

(4) 監視

- ・舵手軽量と艇計量を実施
- ・艇計量対象クルーの選出について（できるだけ多くの団体に経験させる趣旨で選出）  
初日午前 事前計量が前日にできなかったため最下位クルーを対象（最下位付置対応）  
初日午後 無作為抽出  
2日目 初日に選出されていない団体から抽出（中学の試合では実施せず）

(5) その他

- ・B級試験準備として実技勉強会を実施（國光副審判長）

8. レース関連特記

- ・ D/W 不携帯  
(M8+予選) 中央大学 B レッドカード →除外
- ・ 舵手計量時刻遅れ  
(高校 M4X+ B 決勝) 筑波大学附属 B → OPEN 参加対応  
(M4+ C 決勝) 早稲田大学理工漕艇部 →OPEN 参加対応
- ・ 艇重量不足による最下位付置(BUW)  
1日目 5件 2日目 5件 計 10件

9. 審判関連引継ぎ事項

(1) 無線機の使い方について

- ・発話者が内容を簡潔にしないと、次の人が無線を使えない  
→結果報告だけが必要なケースで、その経緯を長々と説明し無線を占有する事例があった。
- ・発艇2分前以降は控える
- ・連絡事項への承諾応答は、発艇→線審→主審(番号順)→判定→監視の順

(2) 信号発艇における注意

- ・信号発艇では、「ゴー」の号令はかけずブザーを押す。  
→実際に「ゴー」を発してしまったケースがあった。

(3) 線審旗

- ・線審旗は発艇後、レース艇が発艇水域(100m)を過ぎるまで掲げる。  
→発艇後、早々に線審旗をたたんでしまうケースがあった。

(4) 着順判定表作成時の注意

- ・OPENにて、タイムを計測するが着順が着かないクルーの場合、順位が「OPEN」のクルーに到達順何位のタイムを記入するのかを計時員に指示しなければ計時員はわからない。  
→実際に誤記入が発生した。
- ・着順欄は判定員以外の記入は不可  
→着順判定表が汚れたため計時員(学連)が書き直す際、着順まで計時員が記入した。

- ・着順の記入後の修正は不可（修正する必要があるのであれば着順表そのものを作り替える）。  
→着順を二重線で消して修正するケースがあった。（タイムの修正ならば構わない）
- (5) 監視部署からの報告のタイミング
  - ・種目ごとに計量が終わった段階でまとめて審判長に報告
  - 舵手計量結果の報告がないと D/W の有無をレース前に必要部署に連絡できない。
  - 艇計量結果の報告がないと、公式レース結果を掲示できない。
- (6) 艇計量での重量不足での手順
  - ・重量不足の際、1 回目の計量結果を確認、その後、公式のおもりでの計量を実施して確認、その後 2 回目の計量を行い、2 回目の計量で重量不足の場合は、計量不合格。
  - ・計量不合格の場合は、選手に最下位付置になることを合わせて伝える。
  - 最下位付置ではなく除外だと思いついたクルーが艇計量に来ず、次のレースに出漕しなかった。（M4+ 決勝 C 東京大学医学部 棄権手続きをしていないため順位はつかず失格）
- (7) ユニフォームの統一確認
  - ・発艇での確認
    - ローイングスーツの上部を下げたままアンダーシャツ姿で漕いだのを見逃してしまった
  - ・舵手の追加衣服着用
    - これまで、寒さ対応で舵手が上に何かをはおることを審判長注意などで認めてきたが、2021 年 4 月改訂で、ユニフォームが漕手と揃っていれば、舵手が別の衣服を加えて着用することが認められるようになった。今大会で、舵手だけアンダーシャツをつけているクルーが発艇から報告されたが、舵手計量と勘違いし（舵手計量はユニフォームだけしか認められないのでアンダーシャツを着用しての計量は不可）、該当クルーに「指導」するよう誤った指示をしてしまったケースがあった
- (8) 大会要項での競漕規則の適用緩和の周知
  - ・今大会では、混成クルーに対し、それぞれの団体のユニフォーム着用を、大会要項で認めている。
  - 要項は募集時に出漕団体に発表されているが、プログラムには掲載されないため、審判には周知されていない。そこで 2 日目の審判ミーティング時に要項を配布、競漕委員会が要項で定めた例外事項の説明を行った。

## 10. 所見

- (1) このレガッタを通じ
  - ①シーズン前にクルーに競漕規則を浸透させること、
  - ②各審判員が自分の技量を確認すること、
 を「お花見レガッタの目的」として審判に取組んだ。  
 そのため、特に全日本にて問題になりがちな艇計量については、できるだけ多くの団体が経験できるよう配慮した。また、計量所が空いていないためクルーが事前計量できていない初日午前中のレースでは、重量不足で最下位扱いになっても順位が変わらないよう、レース最下位クルーを艇計量対象にする措置を行った。  
 また、競漕規則に関する知識不足で失格、除外になったクルーを救済するため、競漕委員会

と連携、その参加費を転用して OPEN 参加としてレースに残れるよう配慮した。

- (2) 審判募集を行った時点ではまん延防止措置が適用されていたため、関東の審判だけに限定し他ブロックには募集をかけなかったため、関東の審判員だけでの実施となった。
- (3) 東ボ正岡 A 級審判員の審判定年による引退試合となった。正岡審判員には監視を除く全部署にはいってもらい最終レースでは発艇号令をお願いした。正岡審判員には引き続き参与審判員として東ボのレースには参加いただく。
- (4) 参加クルーへの競漕規則の啓発がこの大会の目的としているが、指導や警告を受けたクルー以外には内容が周知されないことも多く、例えば、発艇でのイエローカードやレッドカードの通告は放送するようにするなど工夫してもよかったという声もあった。(今大会では行わなかった。)
- (5) オアズマンクラブ慰霊レースでは、正岡審判員に「昭和の発艇号令」をお願いした。現在の日ボの発艇号令は、静かな環境をクルーに提供することを目的としたものだが、市民レガッタなど、イベント的なレースについては、場を盛り上げるために「昭和発艇号令」(「〇〇いいか、用意、ロー」)を行うことが、ボートの普及につながるのではないかと感じた。
- (6) レースと並行して、関東ボート連盟 B 級実技試験対策を実施した。教官を國光副審判長をお願いし、東京 2 名、栃木 1 名、茨城 1 名の受験予定者に指導をおこなった。なお、すでに実技合格している千葉 1 名を加えた 5 名が関東からの次回 B 級受験予定者となっている。
- (7) 今回は審判合宿を行わなかったため、吉野副審判長を中心とした C 級審判員実技勉強会は実施しなかった。※全日本マスターズ(関東ボート連盟受託)にて実施予定
- (8) 東ボ審判サービス回数表彰(敬称略)  
参与表彰(緑バッチ授与) 正岡  
25 回表彰(赤バッチ授与) 櫻田  
10 回表彰(青バッチ授与) 福士, 齋藤, 飯島  
なお、初日参加のみで授与できなかった 2 名(土井, 藤森)には、次回大会にて授与する。

## 【今日の競漕規則】

### 「審判員の号令動作」

#### 艇計量の任務

#### 5. 艇計量の手順

規定の艇重量を満たしていないとき。

- ①一回目の計量結果を定められた記録用紙に記載する
- ②クルー代表者立ち会いのもと、重量計を所定の標準重量を用いて検定し、その結果を定められた記録用紙に記載し、クルー代表者及び艇計量長が署名をする。
- ③2回目の計量を行い、規定の重量を満たした場合は計量合格とする。
- ④再度規定重量を下回る場合には、計量結果を艇重量確認票に記載し、クルー代表者と艇計量長が署名する。
- ⑤審判長に計量結果を報告し、艇重量確認票を審判長に提出する。

以上

